

# 東近江市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果 【概要版】



平成31年3月 東近江市

## I. 調査の概要

### 1. 調査の目的

本調査は、「第2期東近江市子ども・子育て支援事業計画」の策定に係る基礎資料として、保育ニーズや東近江市の子育て支援サービスの利用状況・利用意向、また、子育て世帯の生活実態、要望・意見などを把握することを目的に実施しました。

### 2. 調査対象

- 就学前児童調査：住民基本台帳から市内の0歳から5歳の子どもがいる世帯 2,000 世帯を抽出
- 小学生調査：住民基本台帳から市内の小学生がいる世帯 1,000 世帯を抽出

### 3. 調査期間・方法

- 調査期間：平成31年1月7日（月）～平成31年1月21日（月）
- 調査方法：郵送による配布・回収

### 4. 回収状況

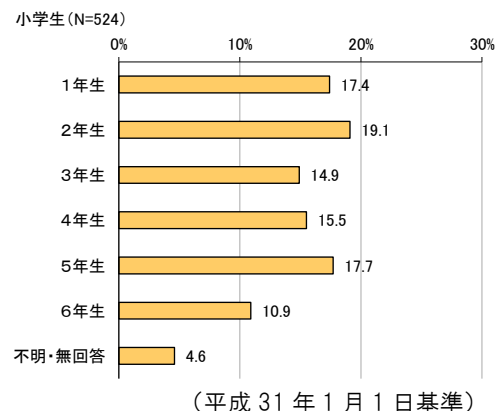
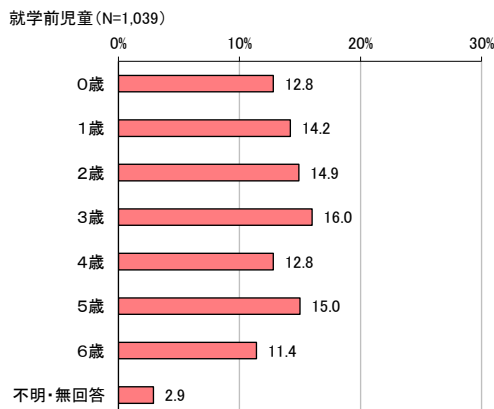
有効回収数（回収率）：就学前児童 1,039 件（52.0%）、小学生 524 件（52.4%）

## II. 調査結果

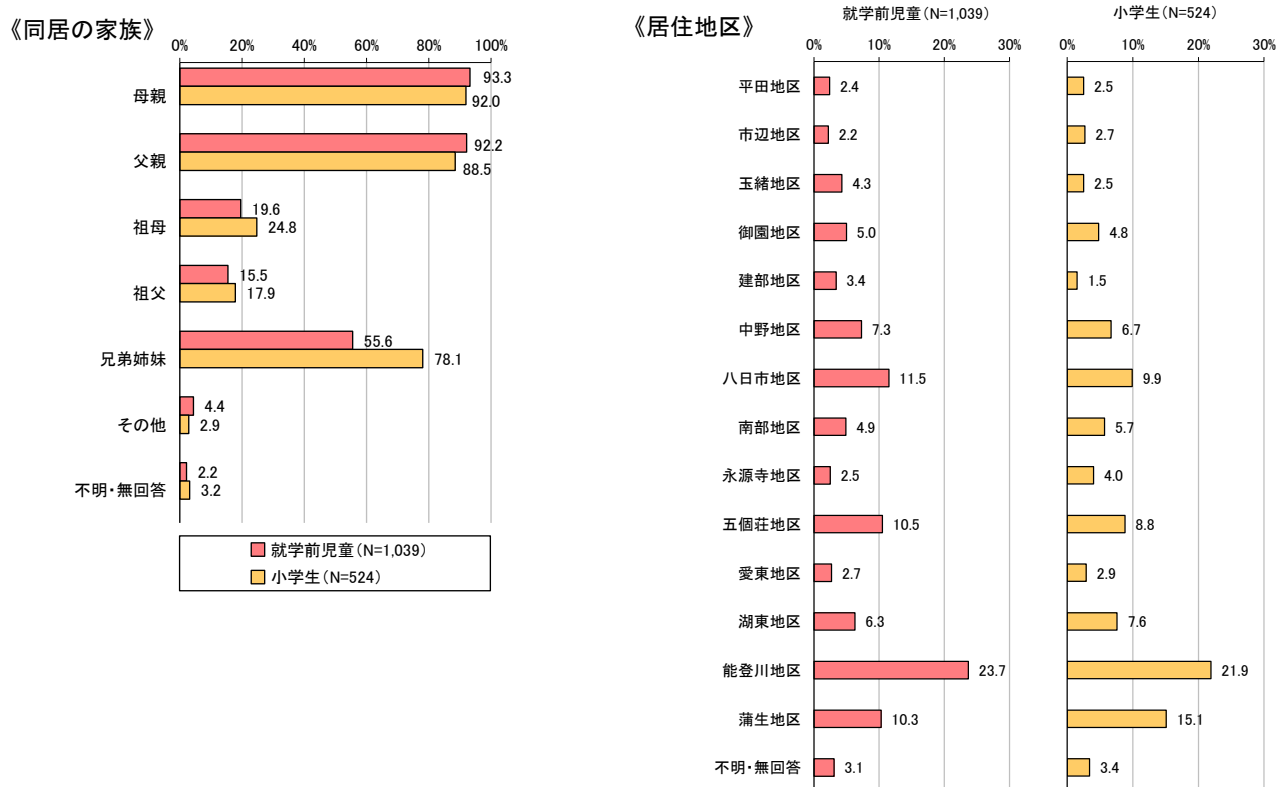
回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

### 1. 家族構成や暮らし及び就労状況について

- 調査対象の子どもの年齢・学年については、次のグラフのとおりです。

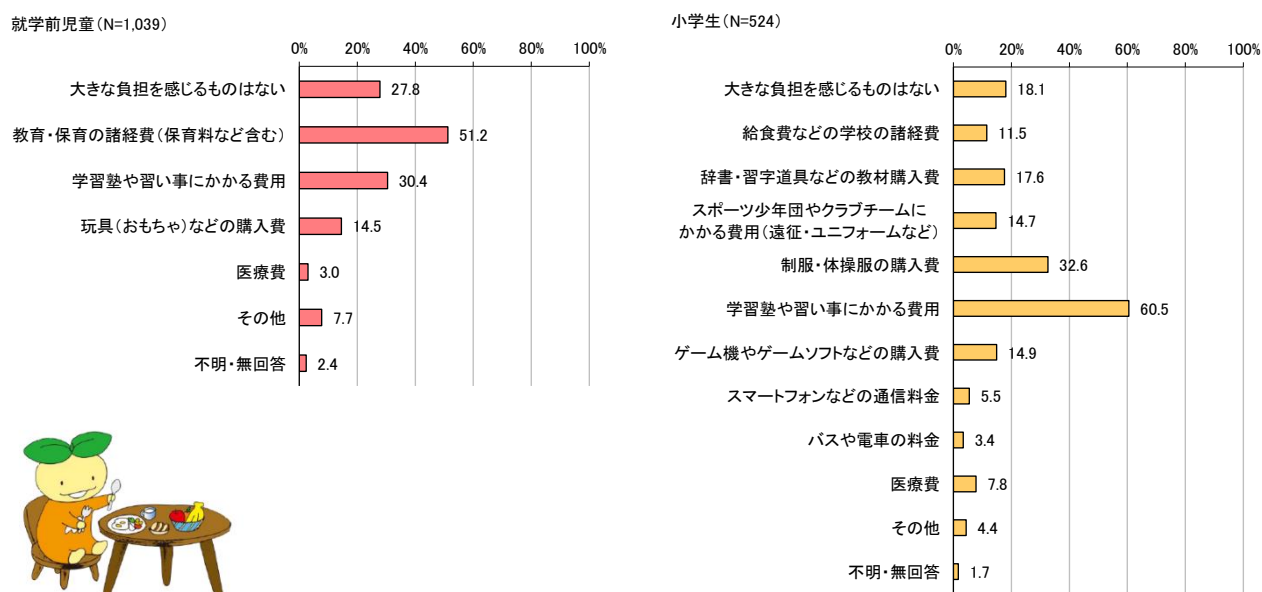


- 同居の家族については、就学前児童では「母親」が93.3%と最も高く、次いで「父親」が92.2%、「兄弟姉妹」が55.6%となっています。小学生では「母親」が92.0%と最も高く、次いで「父親」が88.5%、「兄弟姉妹」が78.1%となっています。



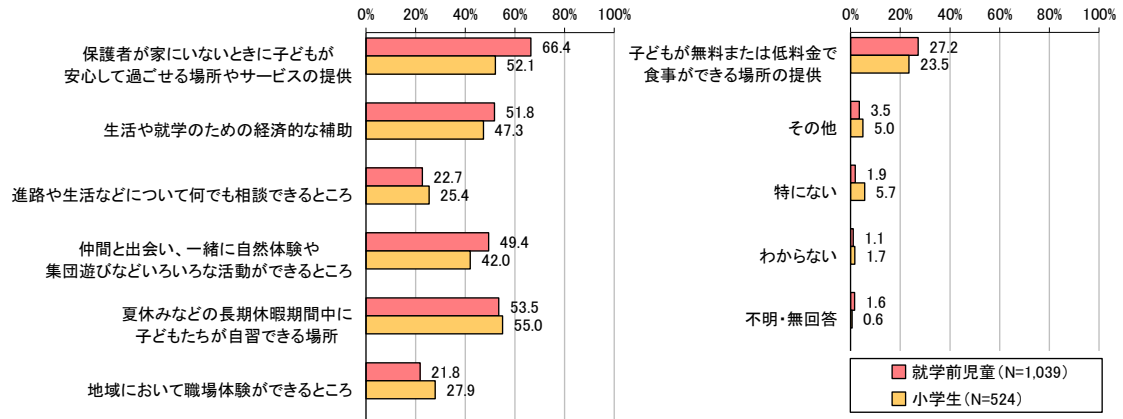
- 子どもにかかる費用で経済的に負担が大きいと感じるものについては、就学前児童では「教育・保育の諸経費(保育料など含む)」が51.2%と最も高く、小学生では「学習塾や習い事にかかる費用」が60.5%と最も高くなっています。

《子どもにかかる費用のうち、経済的に負担が大きいと感じるもの》



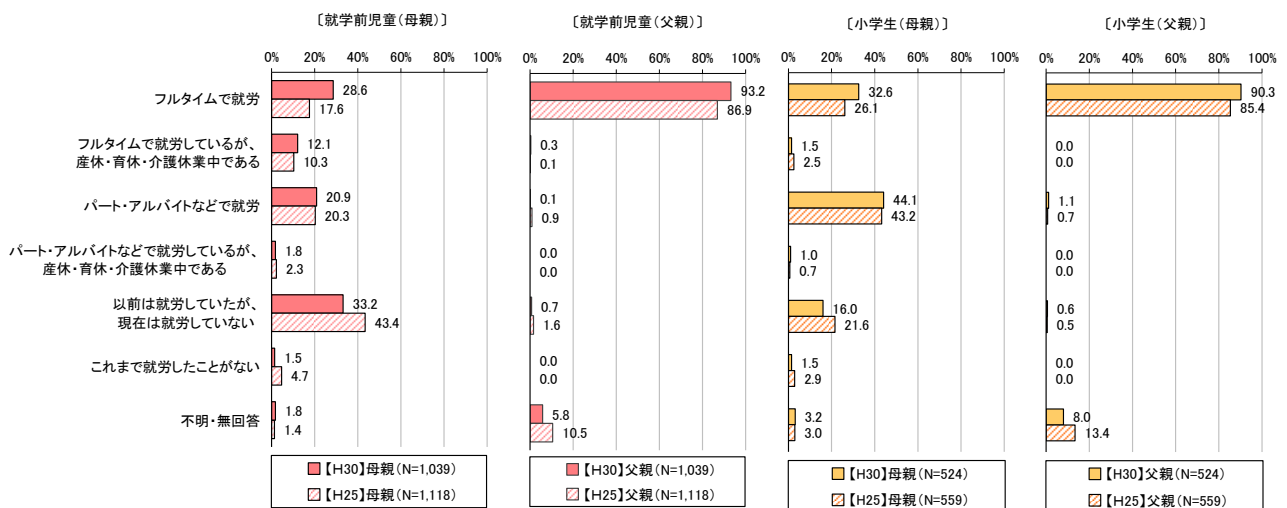
- 利用したいと思う支援については、就学前児童では「保護者が家にいないときに子どもが安心して過ごせる場所やサービスの提供」が66.4%と最も高く、小学生では「夏休みなどの長期休暇期間中に子どもたちが自習できる場所」が55.0%と最も高くなっています。

《利用したいと思う支援》



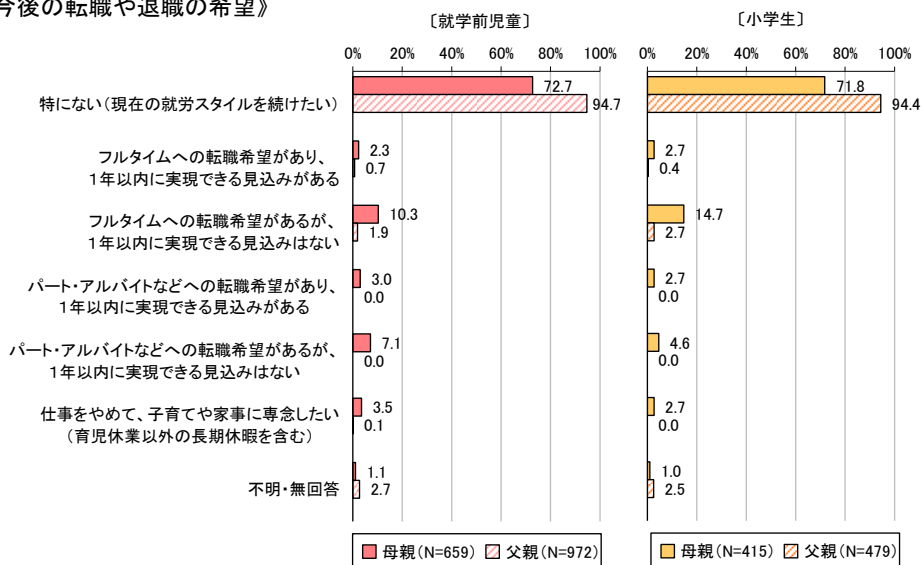
- 保護者の現在の就労形態については、就学前児童の母親では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が33.2%で最も高くなっています。前回調査との比較では、母親で「フルタイムで就労」が11.0ポイント増加し、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が10.2ポイント減少しています。小学生の母親では「パート・アルバイトなどで就労」が44.1%で最も高くなっています。前回調査との比較では、大きな傾向の差はみられません。

《現在の就労形態》



- 転職や退職の希望については、いずれも「特にない」が7割以上と最も高くなっています。就学前児童、小学生ともに母親は、何らかの転職・退職希望がある方が2割台後半となっています。

《今後の転職や退職の希望》

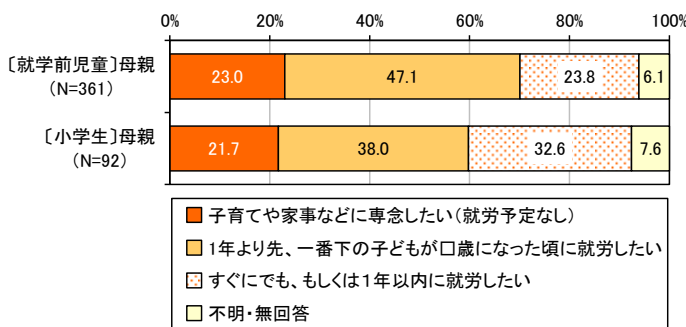


- 就労していない保護者の今後の就労希望については、就学前児童、小学生ともに母親は、「1年より先、一番下の子どもが口歳になった頃に就労したい」が最も高く、就学前児童で47.1%、小学生で38.0%となっています。

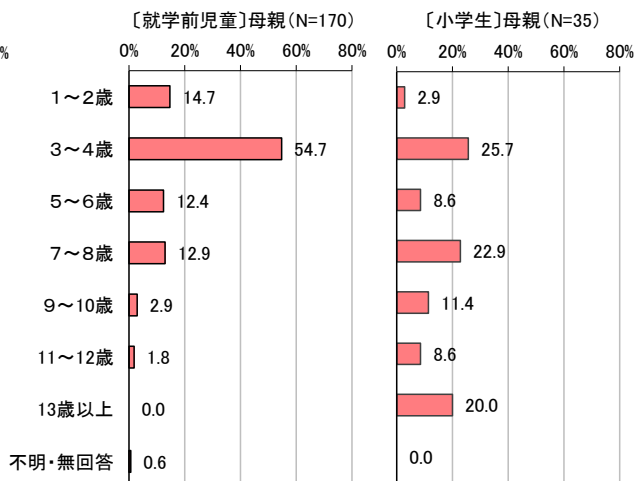
「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」は、就学前児童で23.8%、小学生で32.6%となっており、就学前児童、小学生ともに約7割の人が就労を希望されていることがわかります。

- 「1年より先、一番下の子どもが口歳になった頃に就労したい」を選んだ方の、就労したい時の一番下の子どもの年齢についてみると、「3～4歳」が最も高く、就学前児童の母親で54.7%、小学生の母親で25.7%となっています。

《就労していない保護者の今後の就労希望》

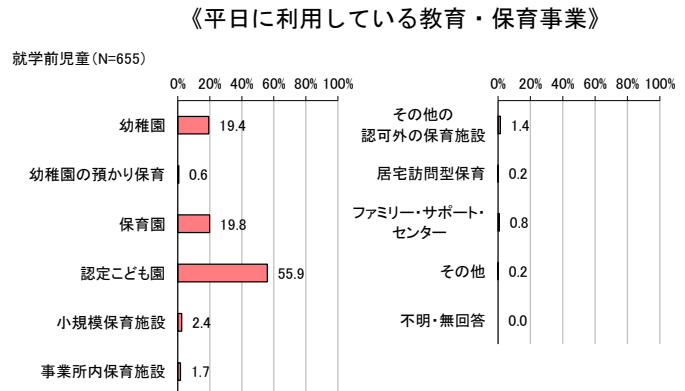
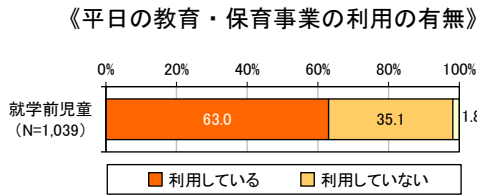


《就労していない保護者の今後の就労希望》



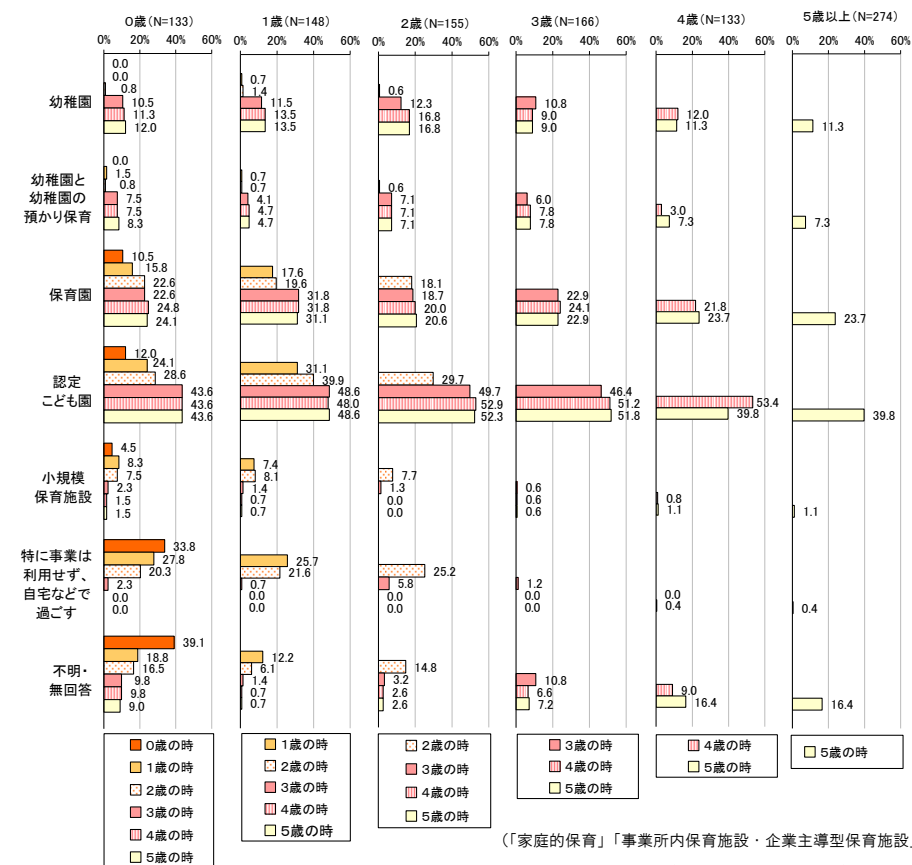
## 2. 平日の教育・保育事業※の利用について

- 現在の平日の教育・保育事業の利用状況については、「利用している」が63.0%となっています。利用事業の種類については、「認定こども園」が55.9%、「保育園」が19.8%、「幼稚園」が19.4%となっています。



- 幼児教育・保育の無償化を踏まえ、今後利用したい教育・保育事業については、「幼稚園」「保育園」「認定こども園」が、各歳ともに上位に挙がっています。また、調査時点で0歳、1歳、2歳の子どもの場合は、「特に事業は利用せず、自宅などで過ごす」の割合が、『2歳の時』までで2割台～3割台となっています。

《幼児教育・保育の無償化を踏まえ、子どもが5歳までに利用したい教育・保育事業》  
(平成31年1月1日現在の年齢)

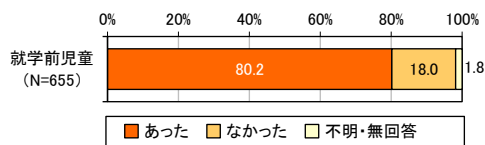


※教育・保育事業とは、幼稚園や保育園、認定こども園などの事業。

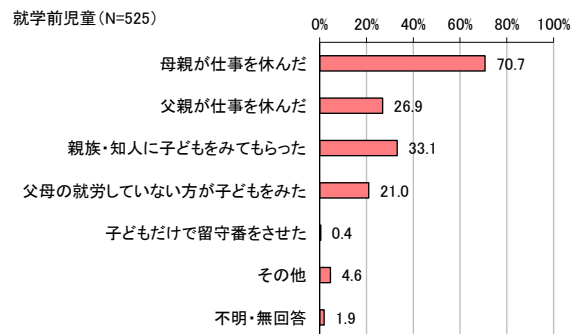
### 3. 病児・病後児保育について

- 平日の教育・保育事業利用者に、この1年間に病気などで通常の教育・保育事業が利用できなかった経験については、「あった」という回答が80.2%みられました。
- 利用できなかった方の対応方法については、「母親が仕事を休んだ」が70.7%と最も高くなっています。
- 父親または母親が仕事を休んで対応した方については、病児・病後児保育を「できれば利用したい」は22.0%となっています。前回調査との比較では、「利用したいとは思わない」が15.3ポイント増加しています。

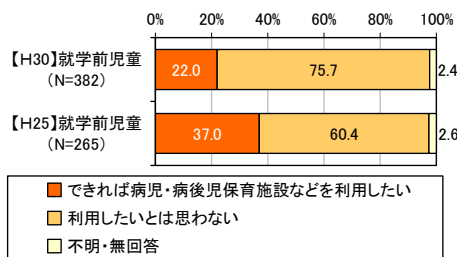
《病気などで教育・保育事業を利用できなかったことの有無》



《利用できなかった方の対応方法》



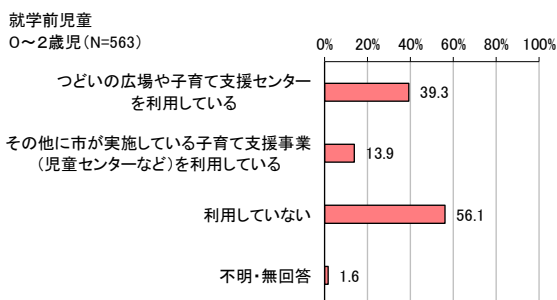
《病児・病後児保育の希望》



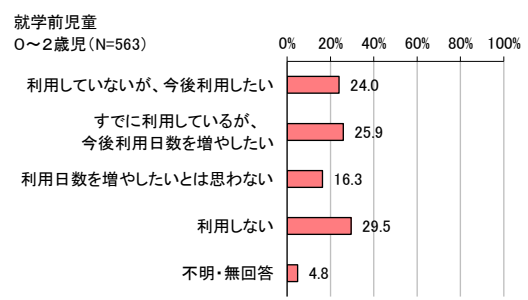
### 4. 地域子育て支援拠点事業※について

- 現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況（0～2歳児）については、「つどいの広場や子育て支援センターを利用している」が39.3%、「その他に市が実施している子育て支援事業を利用している」が13.9%となっています。今後の利用意向では、「利用していないが、今後利用したい」が24.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が25.9%という結果でした。

《地域子育て支援拠点事業の利用状況》



《地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向》

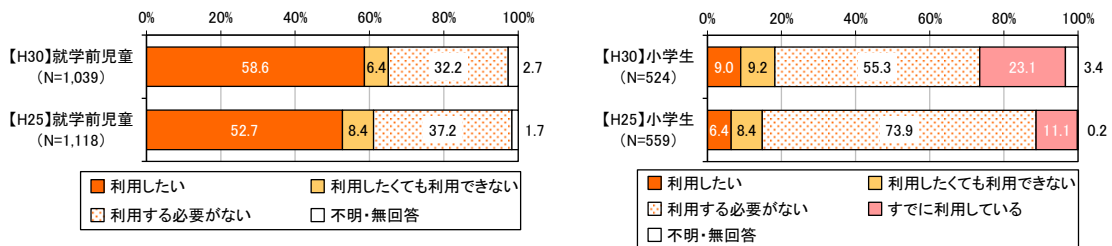


※地域子育て支援拠点事業とは、つどいの広場や子育て支援センターで実施している事業。

## 5. 学童保育所について

- 学童保育所の利用意向については、就学前児童では「利用したい」が58.6%と最も高く、次いで「利用する必要がない」が32.2%となっています。小学生では「利用する必要がない」が55.3%と最も高く、次いで「すでに利用している」が23.1%となっています。前回調査との比較では「利用する必要がない」が18.6ポイント減少し、「すでに利用している」が12ポイント増加しています。

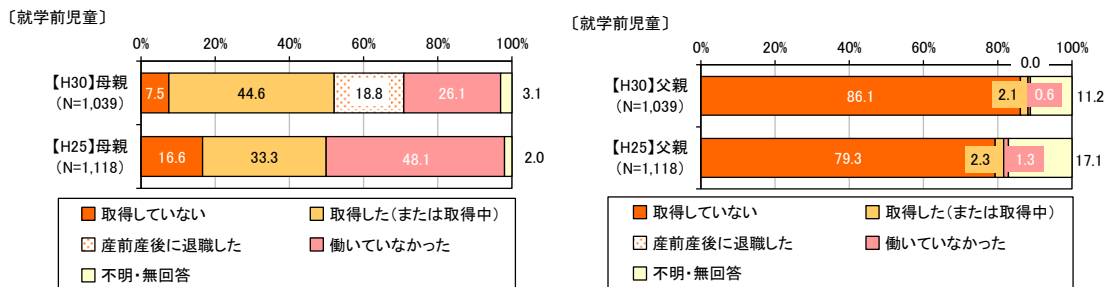
《学童保育所の利用意向》



## 6. 育児休業の取得状況などについて

- 育児休業の取得経験については、母親は「取得した（または取得中）」が44.6%、「働いていなかった」が26.1%、「産前産後に退職した」が18.8%となっています。父親は「取得していない」が86.1%で、「取得した（または取得中）」は、わずか2.1%となっています。

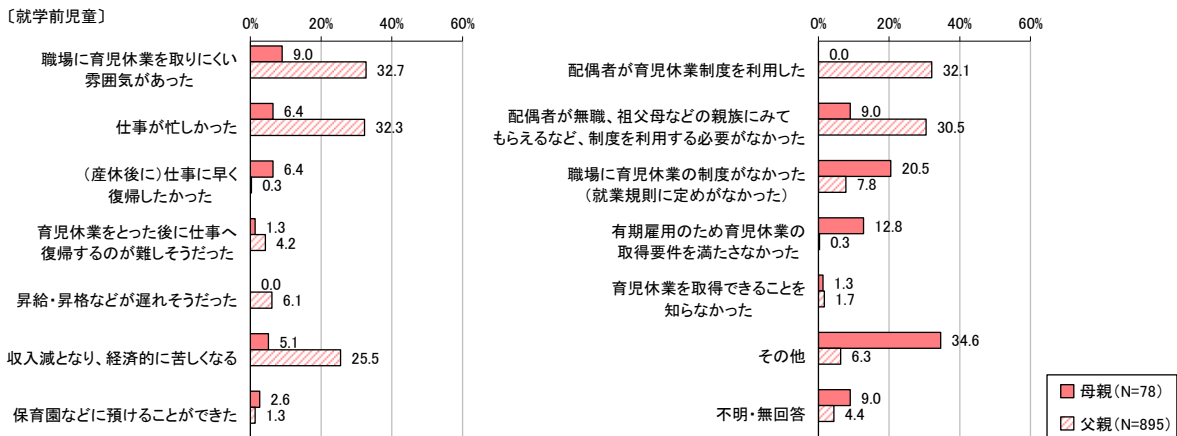
《育児休業の取得経験》



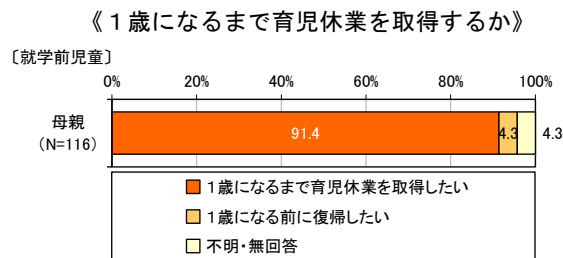
(「産前産後に退職した」は今回調査のみの選択肢)

- 育児休業を取得していない方の理由については、母親は「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が20.5%、父親は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が32.7%となっています。

《育児休業を取得していない理由》

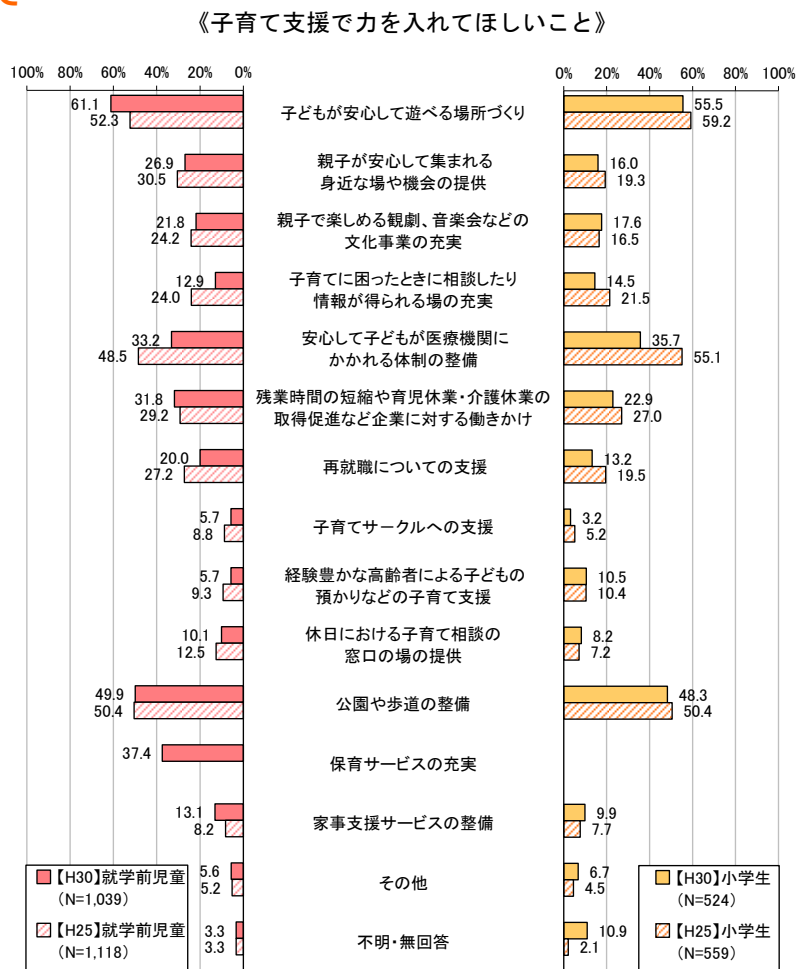


- 子どもが1歳になったときに必ず利用できる保育があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかどうかについて（育児休業中の方）は、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が91.4%でほとんどを占め、「1歳になる前に復帰したい」は4.3%にとどまっています。



## 7. 子育て支援施策全般について

- 子育て支援で力を入れてほしいことについては、就学前児童、小学生ともに、上位2項目が同じで、「子どもが安心して遊べる場所づくり」が就学前児童61.1%、小学生55.5%、「公園や歩道の整備」が就学前児童49.9%、小学生50.4%となっています。前回調査との比較では、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制の整備」が就学前児童で15.3ポイント、小学生で19.4ポイント減少しています。



- 子育ての環境や支援施策への満足度について、就学前児童では、「どちらともいえない」が43.3%と最も高く、次いで「満足度はやや高い」が29.3%となっています。小学生では、「どちらともいえない」が49.6%と最も高く、次いで「満足度はやや低い」が21.6%となっています。前回調査との比較では『満足度高い計』（「満足度はやや高い」と「満足度は高い」の割合の合計）が就学前で16.2ポイント、小学生で8.4ポイント増加しています。

